

六 根 清 淨 大 祓

(ろっこんしょうじょうおおはらえ)

清香 88 編 2023.11

天照 皇太神の 宣はく

(あまてらします すめおほみかみの のたまわく)

人は 則ち 天下の 神物なり

(ひとは すなわち あめがしたの かみみたまもの なり)

須らく 静め 謚まることを 掌るべし

(すべからく しずめしづまることを つかさどるべし)

心は 則 神明の 本の 主たり

(こころは すなわち かみと かみとの もとの あるじたり)

心神を 傷ましむること 莫れ (わが たましいを いたましむること なかれ)

是の故に (このゆえに)

目に 諸の不浄を見て 心に 諸の不浄を見ず

(めに もろもろの ふじょうをみて こころに もろもろの ふじょうをみず)

耳に 諸の不浄を聞きて 心に 諸の不浄を聞かず

(みみに もろもろの ふじょうをききて こころに もろもろのふじょうをきかず)

鼻に 諸の不浄を嗅ぎて 心に 諸の不浄を嗅がず

(はなに もろもろの ふじょうをかぎて こころに もろもろのふじょうをかがず)

口に 諸の不浄を言いて 心に 諸の不浄を言わず

(くちに もろもろの ふじょうをいいて こころに もろもろのふじょうをいわず)

身に 諸の不浄を触れて 心に 諸の不浄を触れず

(みに もろもろのふじょうをふれて こころに もろもろのふじょうをふれず)

意に 諸の不浄を思ひて 中心に 諸の不浄を想はず

(こころに もろもろのふじょうをおもひて なかこころに もろもろのふじょうをおもはず)

此の時に 清く 潔き 偈あり
(このときに きよく いさぎよき ことあり)

諸の 法は 影と像の 如し
(もろもろの のりは かげとかたちの ごとし)

清く 潔ければ 仮にも 穢るること無し
(きよく いさぎよければ かりにも けがるることなし)

説を取らば 得べからず
(ことをとらば うべからず)

皆 花よりぞ 木実とは生る
(みな はなよりぞ このみとは なる)

我が身は則ち 六根清浄なり
(わがみはすなわち ろっこんしょうじょう なり)

六根清浄なるが故に 五臓の神君 安寧なり
(ろっこんしょうじょうなるがゆえに ごぞうのしんくん あんねいなり)

五臓の神君 安寧なるが故に 天地の神と同根なり
(ごぞうのしんくん あんねいなるがゆえに てんちのかみと どうこんなり)

天地の神と 同根なるが故に 万物の霊と 同体なり
(てんちのかみと どうこんなるがゆえに ぼんぶつのれいと どうたいなり)

万物の霊と 同体なるが故に
(ぼんぶつのれいと どうたいなるがゆえに)

為す所の 願いとして 成就せずと いふことなし
(なすところの ねがいとして じょうじゆせずと いうことなし)

無上靈宝 神道加持 六根清浄
(むじょうれいほう しんとうかじ ろっこんしょうじょう)